

ヴィヴァルディ盤を聴く(6)(HP 収載)
—最新アナログシステムでの試聴(6)—

1. 始めに

[LINN LP-12 の再構成\(35\)](#)および[ThorensTD124 の再構成\(1\)](#)で報告しましたようにこれらのアナログシステムの大幅な変更を行い、バッハ、テレマン、ヘンデルのアナログ盤を聴き直してきました。今回もヴィヴァルディ盤を聴いてみることにしました。

2. ヴィヴァルディのアナログ盤の試聴方法

試聴システムは、LINN LP-12 の再構成(35)および ThorensTD124 の再構成(1)で報告したとおりであり、バッハのアナログ盤をレーベル毎、録音年代毎に整理して、LINN LP-12 と ThorensTD124 のいずれか、または両方で聴いていきます。その後、さらにアンチスタティックの効果(1)とアンチスタティックの効果(2)で報告したようにレコードアンチスタティックも加わり、今回も、スピーカーアキュライザーの出力側のマイナス端子に Crstal EpY-G をセットしています。また、今回も Magic Mat II の導入(2)で報告した Magic Mat II を使用しています。

今回は、次のヴィヴァルディ盤を聴いていきます。これらは、音源の比較試聴(23)と音源の比較試聴(24)でも聴いていますので、聴き直しということになります。

PHILIPS FG-5001 (日本フォノグラム)

アントニオ・ヴィヴァルディ 四季
イムジチ合奏団

PHILIPS 28PC-70 (日本フォノグラム)

アントニオ・ヴィヴァルディ 四季
イムジチ合奏団

PHILIPS PL-1001 (日本フォノグラム)

アントニオ・ヴィヴァルディ 四季「春」第1楽章「冬」第2楽章
調和の幻想 No6 第1楽章
調和の幻想 No11 第2楽章
調和の幻想 No8 第1楽章
調和の幻想 No9 第3楽章

イムジチ合奏団

PHILIPS SFX-7711

アントニオ・ヴィヴァルディ 調和の幻想 No.6・No.8・No.11・No.12
イムジチ合奏団

3. ヴィヴァルディのアナログ盤の試聴結果

音源の比較試聴(23)と音源の比較試聴(24)の結果では、PHILIPS FG-5001 (日本フォノグラム) は TELDEC、R、第 4 時定数 Mid でしたが、PHILIPS 28PC-70 (日本フォノグラム)、PHILIPS PL-1001 (日本フォノグラム)、PHILIPSSFX-7711 は RIAA、N、第 4 時定数 Mid でしたので、その再確認ということになります。

PHILIPS FG-5001 (日本フォノグラム) は、TELDEC、R、第 4 時定数 Mid で音源の比較試聴(23)の印象と変わりません。これまで国内盤と思って RIAA の正相で聴いてきましたので、そのように変更してみますと、過度の広がり感があり、音の焦点が定まりません。

以前はずっとこの条件で聴いていたのですが、国内盤と言う思い込みがあったことと、このような音質であろうという妥協に終始していたものと思われます。その後、フォノケーブルのバランス化、仮想アースとアースアキュライザー、スピーカーアキュライザーのマイナス端子への Crystal Ep-G の接続、レコードアンチスタティック、Magic Mat II などの種々の対策をとってききましたので、このような判別がより容易になってきたものと思われます。

PHILIPS 28PC-70 (日本フォノグラム)、PHILIPS PL-1001 (日本フォノグラム)、PHILIPSSFX-7711 は RIAA、N、第 4 時定数 Mid でしたので、再度、その条件で聴きなおしましたが、それぞれ音源の比較試聴(23)と音源の比較試聴(24)の印象と変わることはありませんでした。

4. まとめ

LINN LP-12 の再構成(35)とアンチスタティックの効果(1)とレコードアンチスタティックやスピーカーアキュライザーの Crstal EpY-G や Magic Mat II の結果をトレースでき、これらのレーベルのイコライザー特性が、音源の比較試聴(23)と音源の比較試聴(24)の結果のとおりである確認がとれました。

以上